

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	対象となる主な学年	全校生徒
取組事例名	『よりよい人間関係づくり』		

◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像

生徒の実態	取組を通して育てたい生徒像
<p>学習意欲が低く、学力に課題がある。友人や学級の仲間との関わり方で、相手の気持ちを考えずに行動してしまいトラブルになるなど、関係性にも課題がある。</p>	<p>○最善の努力をし、自己の目標を達成しようとする生徒 ○いきいきと活動し、向上しようとする生徒 ○郷土を愛し母校を誇りに思う生徒</p>



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい

- ・生徒会執行委員が主導となり、学年を超えた生徒同士のよりよい人間関係を築く。

取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等



①新年度を前に、近隣の中学校2校と生徒会交流を実施。



②先輩から伝統である「みそあじ」にちなんだ「みそあじレンジャー」を継承。



③「命の大切さを考える日」でいじめにつながる行動とは何か、

いじめ撲滅のために自分自身に何ができるかを考え、全体交流を行った。



新入生歓迎会



生徒総会



草抜きボランティア



縦割り縄跳びレク

- ・生徒会執行委員が企画運営し、学年を超えたかわりや、考えの交流を行った。互いに交流することで、学年の垣根を越えて互いを理解し、良い関係が生まれた。

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

○生徒アンケートの結果は以下のとおりである。

- 「嫌なことを嫌と言えている」 (前期) 75.2% ➡ (後期) 77.8%  
 「人の嫌がることをしていない」 (前期) 86.8% ➡ (後期) 88.9%  
 「自分には良いところがある」 (前期) 77.7% ➡ (後期) 80.3%

この結果から、相手のことを考えて行動する生徒、自分の気持ちを我慢せず相手に伝えることができる生徒や、自分の良さに気づいた生徒が増加したということが分かる。

- 生徒同士の関わりの中で、不登校傾向の生徒が登校しやすい雰囲気づくりを工夫する。